

ムーアカデミー通信



Aichi Kaisho Forest Center News Letter Since 2007



霜柱

寒い朝には霜柱がみられます。
バリバリ、ザクザク。
歩くと、足下から楽しい音が
聞こえてきます。



海上の森と共に

自然観察指導員 大島啓孟さん



特集 海上の森はいま

「第2回 人と自然の共生国際フォーラム」開催
海上の森大学閉校
幼児森林体験フィールド オープン

新着図書を紹介します

「ぼくは猟師になった」

海上の森における平成20年度のイノシシの猟果は8頭でした。海上の里では、毎年イノシシが田畑の作物を荒らしています。そのため地元猟友会の方々がワナを仕掛け、捕獲を行っています。海上の森だけでなく全国的に野生動物の被害が問題となっています。著者の猟師としての生活を紹介したこの本は、自分で食べる肉を自分で捕るといふ、人間の根幹をなすシンプルに「生きる」ということに焦点を当てています。これからの野生動物との共存について考える、いいきっかけになる本だと思います。

千松信也著 出版社：リトル・モア



特集 海上の森はいま

「第2回 人と自然の共生国際フォーラム」開催

2008年11月15、16日に、愛知県立大学講堂（長久手町大字熊張）で「第2回人と自然の共生国際フォーラム」が、県内外からの一般参加者を始め、自然環境の活動団体・施設、国・都道府県などの行政機関、CSR活動に取り組む企業などからの出席も含めて、総勢約500名の参加により開催されました。

このフォーラムは、愛知万博の理念や成果を継承し、人と自然が共生する持続可能な社会づくりに向けた大きな潮流を創り出すため、2007年から10年間に渡って開催するもので、第2回目となる今回のフォーラムは、「自然の叡智を再考する ～森林から考える人と自然の共生」をテーマに、世界の森林の現状に目を向けるとともに、「森林」が地球環境や私たちの暮らしにどのように関わっているかを参加者と一緒に考えることをねらいとし、基調講演、ポスターセッション、パネルディ

スカッション、フィールドワークなどのプログラムが実施されました。

今回のフォーラムでは、ポスターセッションなど参加者が交流する機会が設けられ、活発な議論や情報交換が行われました。このフォーラムをきっかけに、国内外に交流の輪が広がっていくことが期待されます。※ 詳細につきましては、センターのホームページにも掲載しておりますので、ぜひそちらもご覧ください。



開会式



ケビン・ショート氏の基調講演

海上の森大学閉校

寒さも増し景色もすっかり冬らしくなる中、12月7日に海上の森センター研修室にて海上の森大学閉校式が行なわれました。今年度は43名（森林再生コース16名、国際交流コース3名、里山文化コース24名）が修了し、マリ クリスティーン学長から修了証書が授与されました。

意見交換会では大学を受講して感じたことや、森林や里山のあり方について活発な意見交換が行なわれました。またひとりひとりがこれからの活動について活動宣言を発表し、決意新たに旅立ちました。



閉校式を終えて、修了生全員で記念撮影

幼児森林体験フィールドオープン

あいち海上の森センターでは、環境教育推進の一環として、小学校入学前までの幼児の情操教育の場としての森林の新たな活用方法を県内に広く普及するため、海上の森における幼児森林体験フィールドの整備や活動実施のためのマニュアル作成を進めております。このたび、その体験フィールドをオープンするとともに、県民の皆さんに広く活動の趣旨などをご理解いただくためのイベント*を3月20日（金・祝日）に実施することとしました。このイベントを皮切りに、今後取り組みを展開していく予定です。

お楽しみに！

*イベントの詳細 p4 「イベント情報」をご覧ください



フィールドでの活動の様子